

感染症の専門医が答える

デング熱に関する Q&A



新聞やニュースで連日取り上げられている「デング熱」ですが、情報が混乱してしまい、大切なポイントが分かりにくくなっています。そこで、巷でよく聞かれる質問に、当院の感染症専門医がお答えします。

Q. どのような病気ですか？

デングウイルスを持つ蚊に刺されることによって起こる感染症です。日本で生息する蚊では、「ヒトスジシマカ」というヤブ蚊がこのウイルスを媒介することができます。日常生活において、人から人へ直接感染することは有りません。感染した場合、刺されてから3日から10日すると、急な高熱や頭痛、腰痛などが現れます。強い腰痛によって逆に姿勢がよく見えたりします。目の奥が痛いと訴える方も多くいらっしゃいます。症状は4～5日間続き、通常は1週間程度で自然によくなります。半数くらいの方は熱が下がる頃に体の中心から始まる赤い発疹がみられます。

Q. すぐに受診した方がいいですか？

重症化は非常に稀なので、まず落ち着いて対応してください。蚊に刺されて3～10日で熱がでたら、デング熱の可能性がありますが、デング熱は、発症してすぐには重症化しません。身体が辛いようでしたら、慌てずに日中の外来を受診して下さい。

Q. 重症化することもありますか？

高熱は見られますが、基本的には1週間程度で自然に治る場合がほとんどです。ただし、インフルエンザと同じように、稀に重症化して亡くなってしまうケースもあります。重症になる方は、熱が下がり始めた頃に具合が悪くなるとされています。このような時期に、以下のような症状が出た場合は、至急医療機関を受診して下さい。

重症化を疑う症状

- ・ 激しい腹痛・嘔吐が続く
- ・ 点状の赤い皮疹（点状出血）がある
- ・ 鼻血、歯肉からの出血がある
- ・ 吐血した、便の色が真っ黒になった
- ・ 朦朧としている、呼びかけに反応しない
- ・ 皮膚がそう白になっている
- ・ 呼吸困難がある

Q. 何度もかかることはありますか？

デング熱のウイルスは4種類あります。1回かかれば同じ型には感染しませんが、他の型には感染します。また、2回目以降の感染で重症化しやすいということが知られています。

Q. どのように治療するのですか？

このウイルスに対する特效薬はありません。熱や痛みを和らげるのみとなります。万一、重症化した場合は入院治療が必要となります。

Q. どのように予防すればいいですか？

残念ながら、今のところワクチンはありません。また、予防薬もありません。蚊に刺されないようにすることが唯一の予防法です。

蚊に刺されない工夫

- 長袖長ズボンで肌の露出をできるだけ少なくする
- 虫除けを使う
- アルコールの摂取を控える
- 制汗剤なので汗を抑える

蚊を増やさない、寄せ付けない

- 幼虫（ボウフラ）が発生しないように水たまり（古タイヤなど）を取り除く
- 蚊取り線香や隠避剤を使って蚊が寄り付きにくいようにする

Q. これからデング熱は流行しますか？

本州以南においては、ヒトスジシマカが生息していますので、感染した人を刺した蚊が次の人を刺せば、ある程度広がる可能性があります。このため、蚊の発生が収まる10月下旬までは、北海道を除く全国で感染者が散発的に発生する可能性があります。ただし、人から人に感染しないので、多くの専門家はインフルエンザのような大流行にはならないと考えています。

Q. 来年以降もデング熱の感染は続きますか？

ヒトスジシマカの成虫は1カ月でその一生を終えます。メスは産卵し2週間前後でまた成虫になります。デング熱ウイルスは卵の段階ではウイルスを持っていません。要は、ウイルスを持った人と成虫が揃わなければ感染が続かないこととなります。温暖化や地下施設の発展などで、いくらかのウイルスは残り、少ないながら感染者がみられる可能性はあります。蚊が再び繁殖する季節にはまた同じようなことが起こる可能性がありますので、日常的な蚊対策がとても重要となります。また、海外で感染したり、日本に訪れた外国の方から感染が広がることは今後もありうると思います。

最後に

蚊によって媒介される病気はデング熱ばかりではありません。日本でもこれからは蚊に対してもっと注意を払うべきでしょう。